

第2回 防災推進国民大会 団体別セッション

日本学術会議公開シンポジウム / 第4回防災学術連携シンポジウム

日時: 平成29年11月26日(日) 11時30分~13時

会場: 仙台国際センター 会議棟2階 桜1 (200席)

主催: 日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、防災学術連携体
 協力: JAXA、国土地理院

参加費: 無料 (一般の方は申し込み不要、入場自由)

日本学術会議・防災学術連携体関係者(加盟学会)は以下URLより参加申込をお願いします。

<https://ws.formzu.net/fgen/S88109262/>

発表資料は防災学術連携体ホームページに掲載 <http://janet-dr.com/>

趣旨

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星によるデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。さらに、リアルタイムでの情報提供につながる超小型衛星によるオンデマンド観測にも期待が集まっている。また、高解像度の人工衛星データ、航空写真、地上での観測、災害復旧状況といった災害に関する様々な時空間的情報を地理情報システム上に重ね合わせて、ハザードマップなどの防災・減災に資する情報や、災害現場の避難、救援、復旧に役立つ情報を迅速に提供することが可能となってきた。本シンポジウムでは、日本学術会議 地球惑星科学委員会の支援のもと、地球惑星科学連合、地理情報システム学会、日本リモートセンシング学会から、衛星情報・地理情報に関する現状と将来計画を紹介するとともに、防災学術連携体の各学会から、衛星情報・地理情報の利用事例を発表する。衛星情報・地理情報のイノベティブな活用方法、未知の分野とのコラボレーションを模索するとともに、防災に関わる学会ネットワークである防災学術連携体に期待される役割についても議論する。

プログラム

- 司会 防災学術連携体 事務局長 塚田 幸広
- 11:35 挨拶 防災学術連携体 代表幹事 廣瀬 典昭
- 趣旨説明 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会 委員長 和田 章
- 11:40 日本リモートセンシング学会:「防災分野への衛星情報利用の最前線」 伊東明彦
- 11:50 地理情報システム学会:「地理情報と防災(仮)」 調整中
- 12:00 日本地図学会:「位置情報の高精度化が防災地図にもたらすもの」 遠藤 宏之(GIS NEXT編集部)
- 12:10 日本気象学会:「気象災害と衛星観測」 早坂 忠裕(東北大学大学院理学研究科)
- 12:20 日本地球惑星科学連合:「火山災害における衛星観測の活用」 山里 平(気象研究所火山研究部長)
- 12:30 日本地すべり学会:「衛星画像・高精度地形情報を用いたランドスライド発生危険地域評価の検討」 檜垣大助(弘前大学)
- 12:40 日本集団災害医学会:「災害医療現場におけるSIP4Dの利活用とその展望」 調整中
- 12:50 質疑応答
- 12:55 閉会 防災学術連携体 副代表幹事 依田 照彦

* 同テーマの連携セッション(13時-15時、同会場)を開催予定

ポスターセッション

平成29年11月26日(日)~27日(月) 10:00~17:00
 仙台国際センター会議棟2階(予定) ※シンポジウムと同じ棟

- 砂防学会: 「衛星情報を利用した土砂災害警戒領域の推定」
- 地盤工学会: 「地理情報を活用した地震時斜面崩壊危険度の評価」
- 日本応用地質学会: 「高精度地形データで熊本地震による地表面変位を計る」, 「沖積平野の微地形解析により想定される災害」
- 日本計画行政学会: 「地域社会との連携による災害情報システムの開発と運用」
- 日本災害看護学会: 「避難生活環境に関する宇宙・地理空間情報技術利活用」
- 日本地震工学会: 「リモートセンシングによる災害把握-近年の地震・津波への適用-」
- 日本第四紀学会: 「赤色立体地図からよみとる日本の地形の特徴と災害」
- 日本地理学会: 「高精細地形情報を用いた津波痕跡の発見と保存:三陸海岸を例に」